広告 企画・制作：読売新聞社ビジネス局

下垂体部腫瘍

進化する内視鏡手術 身体にやさしく

脳の深いところにある下垂体は「ホルモンの司令塔」と呼ばれ、その周辺も含めて腫瘍ができやすく、良性でも様々な症状が表れます。かつては大がかりな開頭手術を行っていましたが、近年は手術技術と医療器具の目覚ましい進歩によって身体にやさしい手術ができるようになりました。内視鏡を使った下垂体腫瘍手術などについて、南福岡脳神経外科病院（福岡市南区）理事長兼院長の矢野茂敏医師と、同病院脳神経外科部長の平岡史大医師に伺いました。

理事長 兼 院長
矢野 茂敏氏

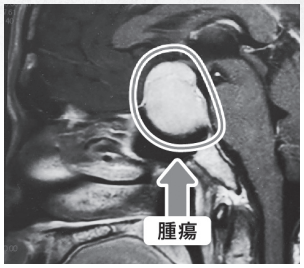
脳神経外科部長
平岡 史大氏

「ホルモンの司令塔」下垂体

――下垂体はどこにあって、どのような働きをしていますか？

平岡　大脳に包まれた脳の中心部にある間脳には視床、視床下部、松果体、下垂体という部位があり、私たちの意識や感覚、自律神経の働きを調整し、体温や食欲、睡眠などを正常に保つ役割を果たしています。

視床下部にぶら下がっている下垂体は約1センチの器官です。成長ホルモンをはじめ甲状腺や副腎皮質にホルモンの分泌を促すホルモンを出すので、ホルモンの中枢であり「司令塔」とも呼ばれています。



矢野　この下垂体とその周辺にはいろんな種類の腫瘍ができやすいので、まとめて下垂体部腫瘍と呼んでいます。一番多いのは下垂体そのものから発生する下垂体腺腫ですが、そのほかにもラトケ嚢胞や髄膜腫といった腫瘍も多く見られます。腫瘍ができやすい理由は分かっていません。

ホルモンを作る器官なので細胞の新陳代謝が激しく、腫瘍ができやすいとも言われています。

目の外側から見えにくくなる症状

――下垂体部腫瘍の症状を教えてください。

平岡　腫瘍が大きくなると視神経が交わる視交叉を圧迫します。初期はまぶしいとか暗いと感じる時があります。進行すると「両耳側半盲」と言って、右目だと右側、左目だと左側が見えにくくなるなどの症状が出ます。視界の中心からみえにくくなる緑内障など目の病気とは違いますので、視力に異常を感じたら眼科を受診するほか、下垂体部腫瘍も疑ってください。

目の異常のほかにも倦怠感や体重増加、月経不順など様々なホルモン異常の症状が出ます。

――診断方法について教えてください。

矢野　下垂体部腫瘍が疑われる患者さんが来院されたら、下垂体をターゲットにMRI（磁気共鳴画像装置）で撮影し、診断するケースが一般的です。下垂体は小さくて見えにくいので、造影剤を使って間隔を狭く撮影すると腫瘍があれば白く見え、確実な診断につながります。大きさは3～4ミリから40ミリの巨大な腫瘍までであります。患者さんは性別の差はあまりなく、おおむね中高年が多いです。

腫瘍と正常部の境界くっきり判別

――どのような治療法がありますか？

平岡　以前は頭蓋骨を切開して腫瘍を取る手法でした。しかし、2010年ごろから内視鏡手術が全国で導入され始め、今は主流になっています。

矢野　「内視鏡下経鼻的手術」と呼ばれる治療は、鼻の奥の粘膜に1センチ弱の穴を空け、直径2～4ミリのカメラやハサミ、ピンセットなどを2本ずつ計4本入れ、腫瘍をはぎ取るような手術を行います。我々が始めた2000年頃は内視鏡を固定して現在よりもずっと画質の悪い環境で一人で手術を行っていましたが、現在は4K高画質の大画面を見ながら医師2人が自由に内視鏡を操作して、より精密な手術が行えるようになりました。

平岡　内視鏡の特徴は脳の深いところを様々な角度から見られることです。直線的な顕微鏡と違って、角度を変えると両端とか前後も良く見えるので小さな傷でも腫瘍がしっかり取れるのです。

矢野　腫瘍と正常部分の境界が色と質感の違いで鮮明に分かります。解析度がどんどん良くなっていますし、顔や頭部を外側から全く傷つけないので、患者さんには喜んでもらえます。手術にあたっては術中ホルモンや神経のモニタリング、神経ナビゲーションシステム、超音波破砕機などの最新機器を駆使して正確かつ正常機能を温存できるように行っています。

身体へのダメージを抑えているため術後の入院は1～2週間です。

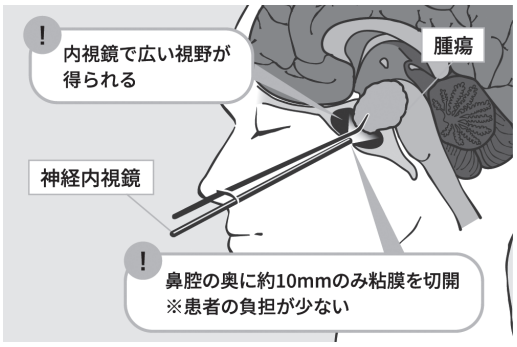
異常感じたら脳の病気かも

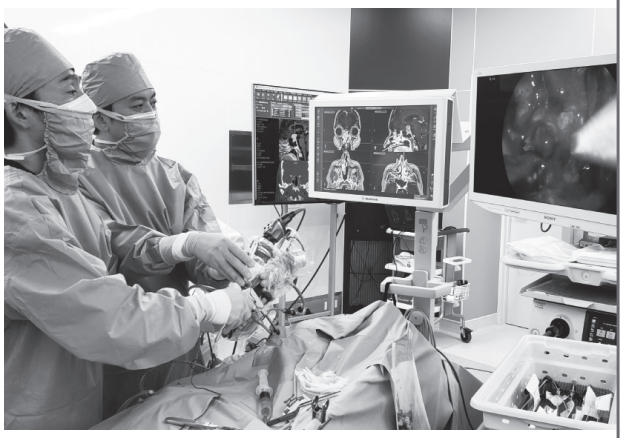
――患者さんが気をつけておくことがありますか。

平岡　先ほど述べた目の異常や倦怠感、体重増加、月経不順などの症状が出たら眼科や内科などのほかにも脳神経外科の受診もご検討ください。

矢野　我々脳神経外科医がこだわっているのは身体にやさしい手術のほか、①合併症なく腫瘍を取る②下垂体の正常機能を温存する――ことです。

手術に当たっては、患者さんに納得していただけるよう丁寧な事前説明を心がけています。





医療法人 重喜会 南福岡脳神経外科病院 〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐5丁目2番23号 TEL:092-591-8171（代表）